

—東日本大震災への迅速な対応—

倉敷東ロータリークラブ 会長

遠藤 堯之



寄贈した車の前で、ロータリー関係者
(南三陸町仮設庁舎前)



イタリアからのメッセージを伝える角南財団学友
(南三陸町仮設庁舎会議室)

9月4日、東北のブロック紙で最大の「河北新報」に、写真入りで次の様な記事が載りました。「日・伊・台 支援の思いつながる 車5台 南三陸町へ 3カ国RC協力で寄贈 (中略)

ロータリー財団の国際親善奨学生だった、ナポリに住むオペラ歌手角南有紀さんが、地元RCの支援申し出を倉敷東RCにつないだのがきっかけ。贈呈式には佐藤仁町長が出席、『69台の公用車が流出し、復興業務に支障を来していた。皆さんの支援を力に変え、町民と心一つに復興に取り組みたい』と述べた。」 また、山陽新聞もこのロータリーの国際支援活動を、二度にわたり報道しました。

そのいきさつをご紹介します。

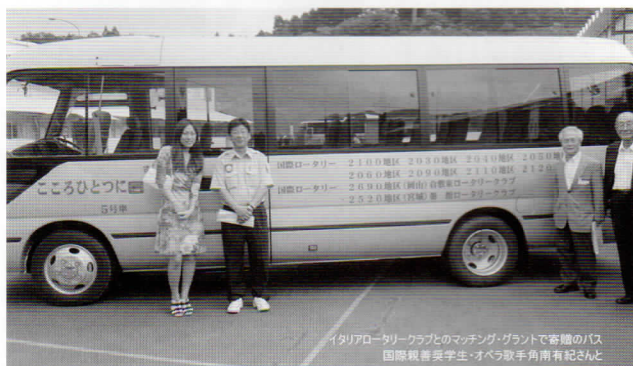
未曾有の大地震と津波が東北を襲った3日後の3月14日、当クラブ推薦でナポリに留学した国際親善奨学生の角南有紀さんを通じて、ナポリのRCから「マッチング・グラント (MG) で津波被災地を支援したい」との申し入れを受けました。しかし、当クラブは「未来の夢計画パイロット地区」であるため、MGが出来ません。宮城県栗原市にある、友好クラブ築館RC (会員数16名) に協力を求めることを思いつきましたが、そこは日本最大の震度7を記録した所で、地震発生後見舞いの電話もメールも通じません。一週間後やっと通じた白鳥元会長の携帯電話によって、築館RC会員全員の無事を確認し、イタリアRCとのMGの窓口になって下さるようお願いしました。当クラブがイタリアとの折衝や申請手続きを支援しMGを進めましたが、イタリアRCに日本の事情や、新しく発足した「日本地震災害復興基金」のルール、等を伝えるのには大変苦労しました。当初、ローターアクトを含むナポリのRC10社の義援金でスタートしたのですが、具体的に南三陸町に車両を贈呈するプロジェクトを提案して、地区財団活動資金 (DDF) の支援を

お願いしたところ、第2100地区のガバナー・ミケランジェロさんが、イタリア全地区のガバナーに声をかけてくれて、10万ドルのMG支援になりました。このMGで南三陸町に29人乗りマイクロバス1台とプリウス1台を贈ることが出来ました。

同じ頃、姉妹クラブ台湾雙和RCからの援助の申し入れに我々の募金を加え、同様築館RCとのMGにし、三菱軽自動車2台を贈呈しました。これに、築館RC姉妹クラブ台湾草屯RCの義援金で買ったバンを加え、合計5台の支援車両の贈呈式を、9月3日南三陸町仮庁舎で行うことが出来た次第です。

このようなロータリーの国際奉仕活動ができた背景に、財団学友や、姉妹クラブ、友好クラブの会員と我がクラブの会員が継続的に深い交流を続けていたことがありました。改めて、ロータリアンの絆を強く感じました。

イタリアRCを代表して車両贈呈式に参列し、自作の歌とイタリアオペラで激励した角南財団学友は、感激した町長から南三陸町夢大使を委嘱されました。我々は、これからも継続して被災地にどういった支援が出来るかを考え、実行につなげて行きたいと思っています。



贈呈したマイクロバスと南三陸町長、角南財団学友